

短 報

群馬県新産・ヒロハヌマガヤ  
*Neomolinia fauriei* (Hack.) Honda

大森威宏

群馬県立自然史博物館：〒370-2345群馬県富岡市上黒岩1674-1

ohmori@gmnh.pref.gunma.jp

要旨：群馬県北西部に位置する吾妻郡からヒロハヌマガヤ (*Neomolinia fauriei* (Hack.) Honda) が2006年に記録された。新たな自生地は最も近い既知の産地(長野県)から直線距離で50km離れている。この自生地の海拔は700mで、既知の産地に比べて低い。自生地は東西2km, 南北1kmの範囲に少なくとも5地点あり、合計1000株以上が生育していた。ヒロハヌマガヤは、群馬県では湿生林の林縁や林床に帯状に生育し、本来ハルニレ林の林縁や林冠ギャップを生育立地としていたと考えられる。

キーワード：群馬県, 新産, 長野県, ヒロハヌマガヤ

*Neomolinia fauriei* (Hack.) Honda,  
Newly found from Gunma Prefecture, Central Japan

OHMORI Takehiro

*Gunma Museum of Natural History* :  
1674-1, Kamikuroiwa, Tomioka, Gunma, 370-2345 Japan

**Abstract** : *Neomolinia fauriei* (Hack.) Honda (Poaceae) was newly found from Gunma Prefecture, Central Japan. Specimens of this species were collected in Agatsuma-gun, western Gunma Prefecture, in 2006 (T. Ohmori 5422 and T. Ohmori 5664). The new locality of the grass is 50km distant from the edge of the distributed area of Nagano Prefecture. The locality is located on ca. 700 meters of altitude and is at the lowest elevation in Japan. *Neomolinia fauriei* sometimes dominates under deciduous forests and their edges. Under natural conditions, this species is probably a component of gaps and the edge of *Ulmus japonica* forest.

**Key Words** : Gunma Prefecture, Newly recorded species, Nagano Prefecture, *Neomolinia fauriei*

はじめに

ヒロハヌマガヤ (*Neomolinia fauriei* (Hack.) Honda) は、朝鮮、中国北部、極東シベリアに分布し、日本では長野県のみから知られていたイネ科の多年生草本である(長田, 1989)。国内ではヒロハヌマガヤはごくまれとされてきたが(長田, 1989)、長野県植物誌(1997年発行)の調

査時に相次いで発見され、引用標本も8点にのぼった。ヒロハヌマガヤは長野県では上伊那郡から南佐久郡にかけて分布する(白井, 1997)。2006年に本種が群馬県にも分布することが明らかになったので報告する。

なお、*Neomolinia*属はしばしば*Diarrhena*属に含められる(たとえば杉本, 1973; 大井, 1982, 1983; 長田, 1989など)こともあるが、本報では白井(1997)に準拠

し東アジア産の*Neomolinia*を北米産の狭義の*Diarrhena*とは別属として扱った。

### 群馬県におけるヒロハヌマガヤの分布域と生態

群馬県吾妻郡内において2006年7月～9月に行った現地調査の結果、ヒロハヌマガヤは東西2 km、南北1 kmの範囲内の少なくとも5地点に分布していた。ヒロハヌマガヤは調査地域ではしばしば群生するため、株数の計測は困難であるが、合計1000株以上生育すると推定された。なお、群馬県のヒロハヌマガヤ自生地域は、絶滅危惧種を多数含む保護上重要な地域であり、保護体制が不十分なため、位置や地点名、共存種についての公表は控える。調査地域において2006年7月23日及び8月21日に採集した標本は群馬県立自然史博物館（GMNH）に収蔵し、重複標本は国立科学博物館（TNS）及び神奈川県立生命の星・地球博物館（KPM）に寄贈した（大森威宏5422；Fig. 1, 大森威宏5664）。

群馬県のヒロハヌマガヤ自生地は、最も近い既知の自生地から直線距離で50km離れている。また、新産地の海拔は700mで、長野県では主に海拔1000～2000mの山地帯から亜高山帯に分布するヒロハヌマガヤの自生地としては低い。



Fig.1 The specimen of *Neomolinia fauriei* collected in Gunma Prefecture (T. Ohmori 5422, GMNH-BS-10320)

群馬県のヒロハヌマガヤ自生地は、台地下縁の平坦部や低い河成テラスなどの局所的に湿潤な場所に位置し、その周囲にはカンボク、オニヒョウタンボク、ハシドイなどのハルニレ林を特徴づける植物（大野，1985）が生育していた。現在これらの場所は二次林やカラマツ植林地、または伐採地であるが、本来はハルニレ林と考えられる。ヒロハヌマガヤは湧水地や泥質土壌上などの過湿な立地には出現せず、日当たりの良い伐採地や林縁で幅1～2 mの帯状群落を形成し、しばしば高さ1 m以上で優占した（Fig. 2）。以上、生育環境や個体群形態から、ヒロハヌマガヤの本来の出現立地はハルニレ林の適湿な林縁や林冠ギャップである可能性が高いと考えられる。



Fig.2 A *Neomolinia fauriei* population in Gunma Prefecture

群馬県ではヒロハヌマガヤは、同属のタツノヒゲ（*Neomolinia japonica*）と同一地域に生育していた。ヒロハヌマガヤは、しばしば平坦地の林床に優占するタツノヒゲと接して生育し、両者の群落には雑種と考えられる中間型が多数確認された。

### ヒロハヌマガヤの形態

ヒロハヌマガヤは日本では局地的な分布をする種で、さらに成熟した果実は落下しやすいため、完全な状態で観察するのが困難な植物の一つである。長田（1989）はヒロハヌマガヤを「日本のイネ科植物では稀品中の稀品で果実はめったに出会えない」とし、花期の線画を示している。ヒロハヌマガヤの円錐花序は直立（長田，1989）もしくは直立または斜上する（大井，1983）とされるが、これは花時の状態である（Fig. 1）。円錐花序は果時には瘦果の自重で枝が開き、全体として斜上し、花序内の分枝は開出ぎみになる（Fig. 3）。この変化はLiang；Philips（2006）に「円錐花序は最初狭披針形、後にやや広がる」と記されているが国内文献にはこの変化を記したものはない。長田（1989）や白井（1997）などの記述通り、内穎の竜骨に2列の刺毛があり（Fig. 4）、内穎背面が著しくざらつく点はヒロハヌマガヤを同属のタツノヒゲから識別する上で重要



Fig.3 *Neomolinia fauriei* at the fruiting time  
(T. Ohmori 5664)

なポイントになる。

以上、ヒロハヌマガヤとタツノヒゲとの区別は困難ではないが、両種の間には雑種が形成され、その個体数は多い。また、ヒロハヌマガヤが分布しない地域にもこの雑種の形態を示す個体が報告されている（白井，1997）。ヒロハヌマガヤが日本では局地的な種であることに加えて雑種個体の存在はタツノヒゲ属の同定を難しくしていると考えられる。

### 謝 辞

神奈川県立生命の星・地球博物館木場英久氏には標本の確認をいただいた。また、関係行政機関各位から調査にあたり便宜を図っていただいた。以上の方々には感謝の意を表する。

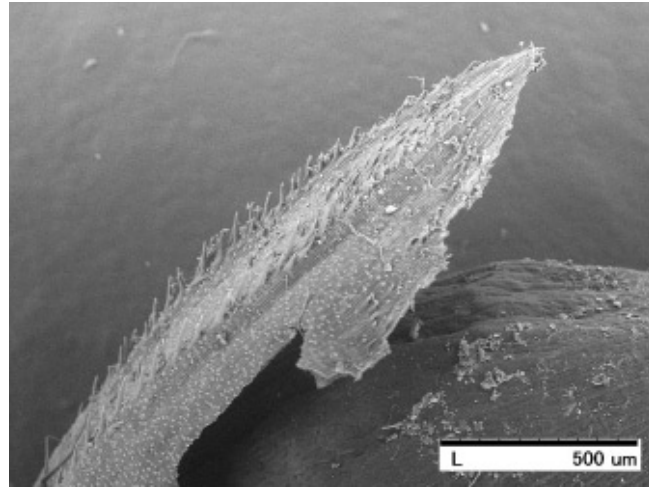


Fig.4 A SEM micrograph of a part of *Neomolinia fauriei*  
(T. Ohmori 5664)

### 引用文献

- Liang, L.; Phillips, S. M. (2006): 10 Tribe DIARRHENAE, Flora of China Vol.22, Flora of China Editorial Committee eds (752pp.), pp.223-224. Missouri Botanical Garden Press. USA.  
著者注：上記著者はLiang原著・Phillips訳と考えられるが、完全な対訳ではない（中国語原文では本文に引用した記述はない：円錐花序はやや拡散するの記述のみ）ため、引用文献通りの著者記述で処理した。
- 大井次三郎（1982）：イネ科 POACEAE (GRAMINEAE)，日本の野生植物 草本 I，佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫編，平凡社，東京，pp.85-126。
- 大井次三郎（1983）：新日本植物誌 顕花編。至文堂，東京。716pp。
- 大野啓一（1985）：(31) 山地湿生林，日本植生誌 中部，宮脇 昭編，至文堂，pp.262-268，東京。
- 長田武正（1989）：日本イネ科植物図譜。平凡社，東京。759pp。
- 白井伸和（1997）：146. イネ科 POACEAE (GRAMINEAE)，長野県植物誌。信濃毎日新聞社，長野。pp.1284-1396。
- 杉本順一（1973）：日本草本植物総検索誌Ⅱ（単子葉編）。井上書店，東京。630pp。